

【ねがいましては】

第76号

平成7年6月29日

共和珠算学習塾

「気がつけるといいね」

相田みつをさんの詩より「負ける人のおかげで勝てるんだなあ」です。

今も昔も勉強というと、学校というイメージが強く浮かびます。また、「勉強」というと「競争」というイメージを抱いてしまう子は少なくないはずです。つまり、学校=競争という方程式が成り立つようです。

そのような環境の中で次々と子どもたちは成人し、社会へと旅立ちます。その社会でもやはり「競争」。

そのレールを歩むうえで忘れてならないのは「他の人たちのおかげで生かされている」ということです。ついつい忘がちな「ひと」の原点を「はっ」という思いで気づかせてもらえる詩です。

子どもたちの心には、初期の段階で「競争」をさせてしまうと、勝った子のこころには、「やったー」的な気持ちが宿ってしまうことが多いと思います。勝ったという自分だけが味わうこころに酔いしてしまう。これは大人でも十分に起こりえるこころです。毎日その気持ちを味わいながら生活している方が多くいらっしゃると思います。

もし、子どもたちが「負けたひとのおかげで勝てるんだなあ」のこころを少しでも周りへ表現し始めたら、大人たちも「ハッ」と目を覚まされるのかもしれません。

勉強はほとんどの場合、競争意識を自然に生み出します。どうしても学校での勉強は「そうじやないんだなあ」と言ったところで、麺をゆでる際の「さし水」のごとく、少しの間は静まりますが、やがてまた沸騰してくる。この競争意識。「勝ったヤッターざまーみろ」のこころから、日々安定した「負ける人のおかげで勝たせてもらう」こころを大切にしていきたいものです。

「ヤッター、ぼく100点とったよ。ところでさ君はどこが違ってたの。ぼくはね、こんなふうに解いてみたんだ。」謙虚な姿勢で周りの子たちに教えてあげる。けっして威張らない。

負けても「くそー、憎きやつ」などと相手を憎むのではなく、悔しいけれど今度こそ・・・。待てよ、こんなやる気を与えてくれたのはあの子がいたからだ。感謝しなきや・・・。

スポーツでも勉強でも、互いに競い合い、尊敬しあえるからこそ、互いを高められるはずです。競い合っていた相手を突然失った場合のことを考えてみて下さい。きっと君は今の自分をより高められる自信はありますか。相手に感謝です。

最後に、相手に勝つことよりももっと難しく厳しいこと、それは自分に勝つことだと思います。

*キャンプの申し込みが始まりました。自由の中にも自らの理性を活かしながら生活する。そんな体験をするとこどろです。「自分が自分が・・・」で通そうとすると、ついに他人とぶつかってしまう。他人と上手に渡り合う生活を肌で感じてください。

スタッフの皆さんには、思いつきりの「やさしさ・おもいやり」をたっぷりと注いであげてください。

☆先月号のクイズの答えです。花子（400円）、太郎（600円）、春子（750円）

正解者・・石井智明君